

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18500427
 研究課題名（和文） 慢性脳血管障害における心身機能障害の帰結とは？
 —発病10年間追跡調査研究—
 研究課題名（英文） Outcome Prediction for the Mental and Physical Functions of Chronic
 Stroke Patients —The Follow up Study at 10 Years after the Onset of Stroke—
 研究代表者
 澤 俊二（SAWA SHUNJI）
 藤田保健衛生大学・医療科学部・教授
 研究者番号：80274976

研究成果の概要（和文）：

本研究は慢性期血管障害者の心身機能の帰結に関して、発病から10年の前向きコホート研究である。運動機能およびADL機能は、入院中に有意に改善を示し、退院後、ほぼ維持した。介護保険制度等、社会的支援ネットワークが、身体機能、ADL面では維持をもたらしている。しかし、介護保険制度利用者は、非利用者に比べ、ADL機能は落ち続け、鬱状態の割合は5年目で90%を超え、QOLの悪い群は60%を超え、危機的状況にあることを見いだした。

研究成果の概要（英文）：

The present study is a positive cohort laboratory from the attack of ten years for the result of chronic period blood vessel handicapped person's mind and body function. The improvement was intentionally shown when in hospital, and the motor function and the ADL function were almost maintained after it had left hospital. The social support network like the nursing-care insurance system etc. has brought maintenance in bodily functions and ADL respect. However, the nursing-care insurance system user kept comparing with non-user, the ADL function fall, and the proportion in the state of the depression after stroke found the crowd that QOL is bad in the crisis situation exceeding 60% exceeding 90% in year fifth.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総計	3,500,000	720,000	4,220,000

研究分野：リハビリテーション

科研費の分科・細目：人間医工学/リハビリテーション科学・福祉工学

キーワード：脳血管障害、リハビリテーション、心身機能障害学、疫学、帰結予測

1. 研究開始当初の背景

(1)2000年4月。介護保険制度は社会的入院の解消、国民全体で介護の必要な人を

支える、リハビリテーション医療を受けることを前提として介護予防を徹底するなど目標にして開始となる。

- (2) 介護保険制度対象者の第 1 位は脳血管障害者である。
- (3) リハビリテーション医療を受けることにより在宅生活が送れる基盤ができる。しかし、その後の利用する介護保険サービス等社会ネットワークが機能しなければ、リハビリテーション医療で得られた心身機能が生活場面で発揮できなくなる恐れがある。
- (4) リハビリテーション専門病院の入院から退院後の心身機能障害を追跡することにより、退院時の帰結予測を得ることができる。
- また、社会的ネットワークの構築に必要な具体的な課題を見つけることができる。
- (5) 介護保険制度開始半年前に本研究をスタートさせる。

2. 研究の目的

- (1) リハビリテーション医療を受けた、初発で、意志の疎通が可能な 40 歳以上の慢性期血管障害者の心身機能の帰結（帰結予後を含む）に関して、発病から 10 年間にわたる前向きコホート研究を基に明らかにすることである。
- (2) 介護保険利用者と非利用者の心身機能の変化について調べ、利用者と非利用者の心身機能を比較検討する。
- (3) 機能障害・活動制限・社会参加制約等心身の障害各々の変化と傾向、関係等を分析し、効果的なリハビリプログラムと介護保険サービスを提供することで心身機能の障害悪化を予防する方策を開発し、退院時、在宅での指導、地域サービスへの種々の施策等の考察を行う。

3. 研究の方法

1999 年 9 月から 2000 年 12 月までにリハビリテーション専門病院でリハビリテーション医療を受けた、初発で、意志の疎通が可能な脳血管障害者の心身機能の帰結（帰結予後を含む）に関して、発病から 10 年間にわたる前向きコホート研究を行う。入院時、退院時、発病 1 年時、発病 2 年時、発病 3 年時、発病

4 年時、発病 5 年時、発病 6 年時、発病 7 年時、発病 8 年時、発病 9 年時、発病 10 年時に、ICF に基づく心身機能障害評価および社会資源調査、退院後のリハビリ訓練内容調査を実施する。尚、本研究は、茨城県立医療大学倫理委員会、藤田保健衛生大学疫学倫理委員会の審査を通り、対象者の同意を得て実施したものである。

表 1 調査方法と調査項目

I 調査時期と調査法：

入院・退院・発病半年・1 年時～5 年時～10 年時の前向きコホート研究

* 同一調査員が一貫して調査（臨床検査 & アンケート）。原則在宅訪問。

II 心身機能の障害評価項目：

臨床検査 & アンケート調査

- (1) 機能障害：① Stroke Impairment Assessment Set (SIAS) , ② Brunstrom Recovery Stage (BRS) , ③ 片麻痺回復グレード法、④ KOHS BLOCK-DESIGN TEST (KOHS テスト)
- (2) 活動制限：① Functional Independence Measure (FIM) ② Canadian Occupational Performance Measure (COPM) , ③ 手の ADL 使用度 (福井)
- (3) 参加制約：① 高次生活機能：脳血管障害者の社会生活活動評価 (Frenchay Activities Index : FAI)
- (4) 個人因子：① 片麻痺手受容度検査 (松田)、② Zung の Self-rating Depression Scale (SDS) , ③ 情緒的支援ネットワーク、④ Self completed Questionnaire for QOL by Iida and Kohasi (QUIK)
- (5) 環境因子：介護保険を含む社会資源調査
- * 本研究は、茨城県立医療大学および藤田保健衛生大学の倫理委員会の審査を通り当事者の同意を得て実施した。

4. 研究成果

当初の計画通り調査を実施することができた。補助金の最後の年は、発病 9 年目および 10 年目の対象者を調査し、補助金終了後、発病 10 年目の全員の調査が終了した時点で、10 年間を分析し、学会等で発表する。その後、20 年間調査を実施する予定である。

研究成果として、運動機能および ADL 機能は、入院中に有意に改善を示し、退院後、一部改善はあるがおおむね維持された (図 1)。このことから、介護保険制度等、社会的支援

ネットワークは身体機能、ADL 面では維持ないし改善の効果をもたらしているといえる。

また、介護保険制度利用者は、非利用者に比べ、ADL 機能は落ち続け、鬱状態の割合は5年目で90%を超え、QOLの悪い群は60%を超え(図2)、危機的状況にあることを見いだした。

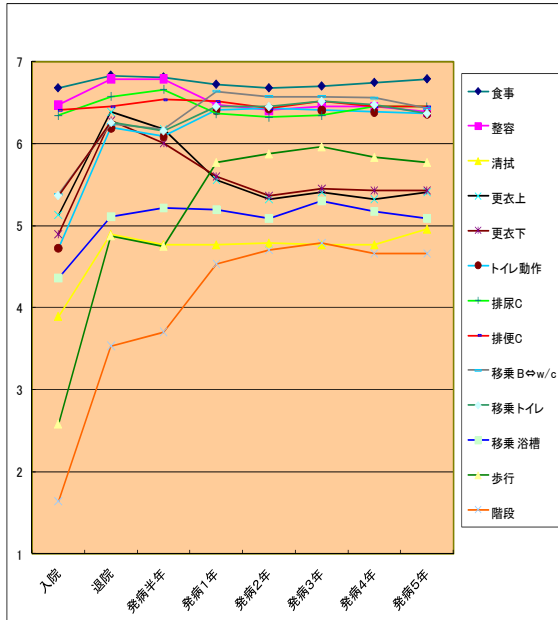


図1 FIM 運動項目の推移 (n=49)

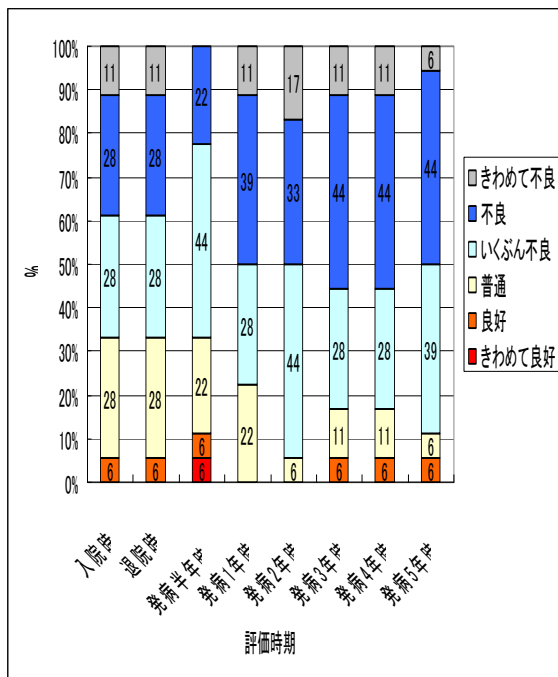


図2 介護保険利用者のQOLの推移(n=18)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① 澤 俊二：就労支援におけるOTの役割と特徴. 作業療法ジャーナル43(7)738-742, 2009 査読無
- ② 澤 俊二, 大仲 功一：リハビリテーションと QOL, 臨床看護, 査読無 Vol, 33, No, 12, 2007, pp1876 - 1882
- ③ 澤 俊二：QOL と ADL ・ IADL の関係—脳血管障害者の追跡調査から—. 作業療法ジャーナル, 査読無, Vol. 37, No. 6, 2003, pp469 -476
- ④ 澤俊二, 磯博康, 伊佐地隆, 大仲功一, 安岡利一, 上岡裕美子, 岩井浩一, 園田茂, 南雲直二, 大田仁史, 嶋本喬：慢性脳血管障害者における心身の障害特性に関する経時的研究—心身の障害予測因子に関する分析—. 茨城県立医療大学紀要, 査読有, Vol, 7, pp69-78. 2003
- ⑤ 澤 俊二, 嶋本 喬, 磯 博康, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 上岡 裕美子, 岩井 浩一, 大田 仁史, 園田 茂, 南雲 直二：慢性脳血管障害者における心身の障害特性に関する経時的研究—リハビリテーション専門病院の入院・退院時比較—. 日本公衆衛生誌, 査読有, Vol. 50, No. 4, 2002, pp 325-338
- ⑥ 澤俊二, 嶋本喬, 磯博康, 伊佐地隆, 大仲功一, 安岡利一, 上岡裕美子, 岩井浩一, 大田仁史, 園田茂・南雲直二, 本間雄太, 増田直美, 城哲也, 森田由希子：脳血管障害発病1年時の介護保険利用別にみたうつ状態とQOLの比較-The IBARAKI Stroke Rehabilitation Follow up Study- 茨城県立病院医学雑誌, 査読有, Vol. 19, No. 1. 2001, pp49-58

[学会発表] (計 33 件)

- ① 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 金田 嘉清, 才藤

栄一, 大田 仁史:慢性脳血管障害者における総合的追跡調査-(第4報)入院から発病3年 実用手に至るプロセス-. 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009年6月5日, 静岡

- ② Shunji Sawa, Hiroyasu Iso, Shigeru Sonoda, Takashi Isaji, Koichi Onaka, Toshikazu Yasuoka, Yuriko Yamakawa, Megumi Suzuki, Masayuki Yamada, Eiichi Saitoh, Takashi Shimamoto, Hitosi Ota: The IBARAKI Stroke Follow up Study - Post Stroke Depression and QOL at 5 Years after the Onset of Stroke-. the5 ISPRM. 2009年6月13日, Istanbul.
- ③ 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田 嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史:慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第3報) QOL(Quality of Life)-発症5年までの推移-. 第45回リハ医学会学術集会. 2008年6月6日, 横浜
- ④ 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田 嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史:慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第2報) -情緒的支援ネットワーク発症3年までの推移-. 第44回リハビリテーション医学会学術集会. 2007年6月6日, 神戸
- ⑤ 澤 俊二, 園田 茂, 磯 博康, 大田 仁史, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 山川 百合子, 嶋本 喬:慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 (第4報) 発病3年時下肢機能と移動能力の推移. 第65回日本公衆衛生学会学術集会. 2006年10月18日, 富山
- ⑥ 澤 俊二, 園田 茂, 伊佐地 隆, 大仲 功一, 安岡 利一, 山川 百合子, 南雲 直二, 金田 嘉清, 才藤 栄一, 大田 仁史:慢性脳血管障害者の総合的追跡調査-SIAS 麻痺側上肢機能

能の発病6ヶ月から3年の推移-. 第43回リハビリテーション医学会学術集会. 2006年5月20日, 東京

[図書] (計4件)

- ① 香山 明美, 小林 正義:作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して; 澤 俊二; 11 治療経過を振り返る面接のコツ: 身体障害ニーズの実現を話し合う面接の場に. 三輪店, 2009. pp98-103
- ② 澤 俊二編著: PT&OT リハビリポケットノート. メデイカ出版, 2009. pp8-14
- ③ 鷺田孝保編著, 澤 俊二他: 作業療法士 イエローノート. メデカルビュー, 2007, pp441-487, pp501-530
- ④ 大田仁史, 浜村明德, 澤 俊二, 下斗米貴子: 地域リハビリテーション論 Vol. 4. 三輪書店, 2009, pp51-95

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤 俊二 (SAWA SHUNJI)
藤田保健衛生大学・医療科学部・教授
研究者番号: 80274976